

## 障害者福祉分野

(1) 障害のある人の調査、難病患者調査

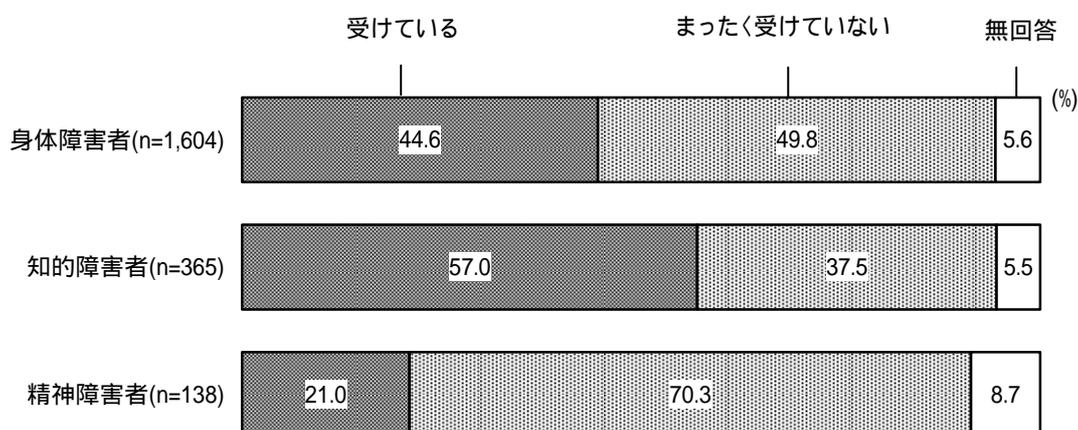
介助の状況

日常生活において、介助を受けているかたずね、  
介助を受けている人には、公的サービスを受けている頻度をたずねました。

日常生活における介助については、身体障害者は、「受けている」、「まったく受けていない」が約半数ずつとなっています。

知的障害者は、「受けている」が半数を超えています。

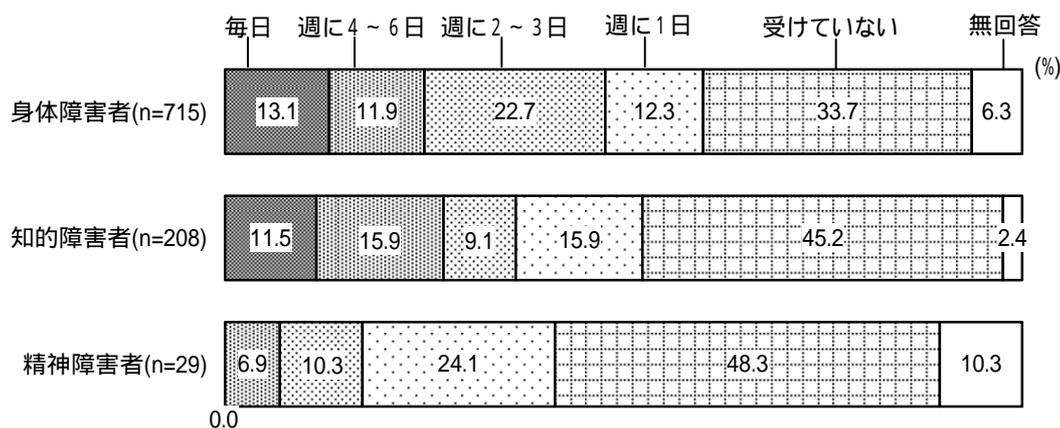
精神障害者は、「まったく受けていない」が約7割となっています。



公的サービスを受けている頻度については、身体障害者は、「受けていない」が3割を超え、「週に2～3日」が約2割となっています。

知的障害者は、「受けていない」が4割を超えています。

精神障害者は、「受けていない」が5割弱となっています。



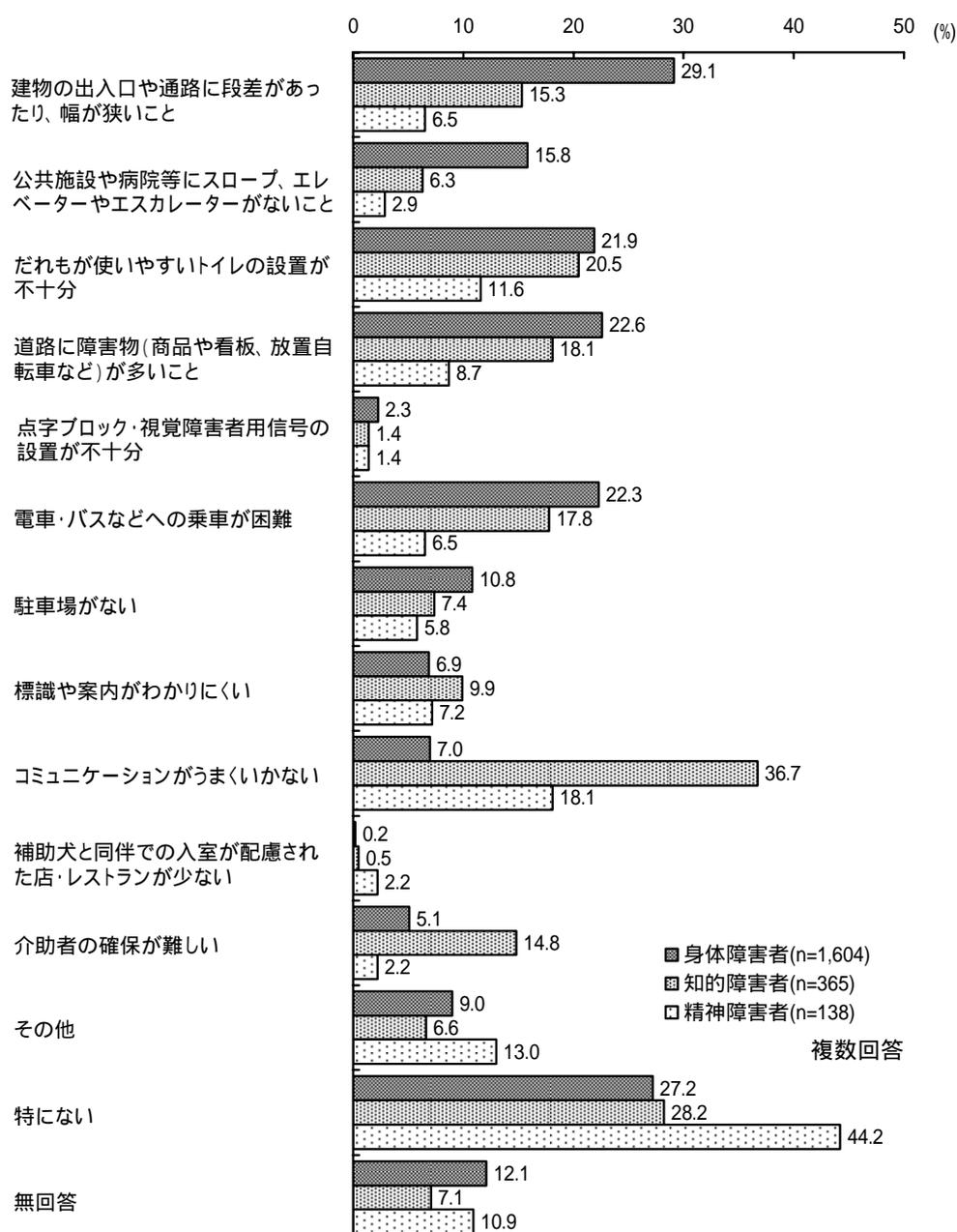
## 外出時不便に思うこと（バリア等）

外出される際に、街の中や建物の中で困ったり、不便に思うことをたずねました。

身体障害者は、「建物の出入口や通路に段差があったり、幅が狭いこと」が3割弱で最も多く、「特にない」が続いています。

知的障害者は、「コミュニケーションがうまくいかない」が4割弱で最も多く、「特にない」が3割弱となっています。

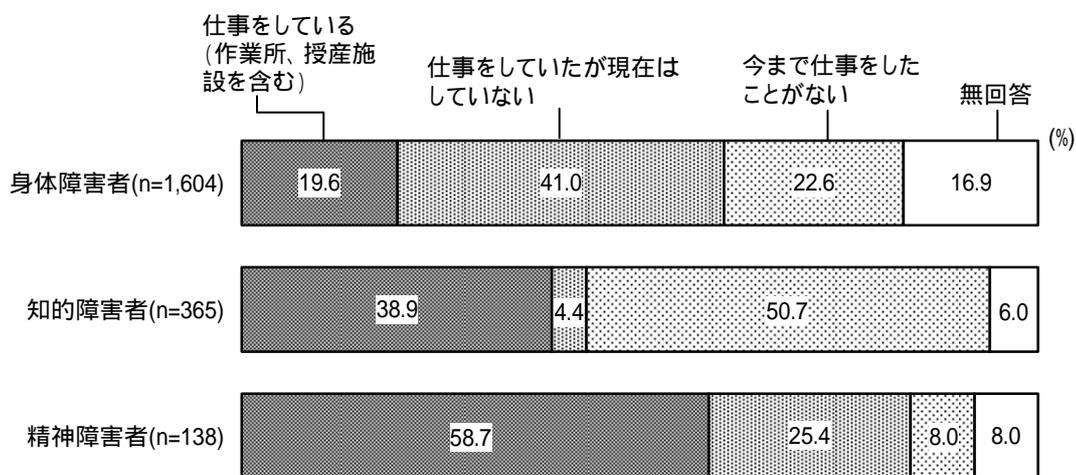
精神障害者は、「特にない」が4割を超えています。不便に思うことは、「コミュニケーションがうまくいかない」、「だれもが使いやすいトイレの設置が不十分」がそれぞれ1割程度あります。



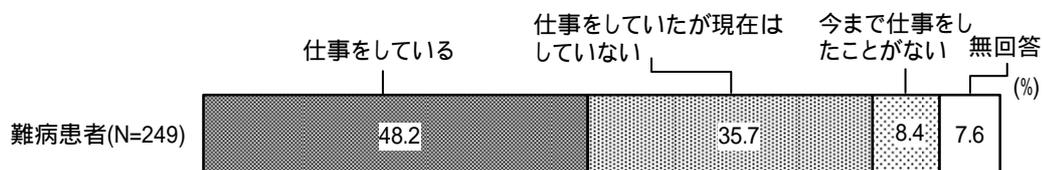
## 就労状況

現在、収入を伴う仕事をしているかたずねました。

身体障害者は、「仕事をしている」が2割弱となっています。  
 知的障害者は、「仕事をしている」が4割弱となっています。  
 精神障害者は、「仕事をしている」が6割弱となっています。



難病患者は、「仕事をしている」が5割弱となっています。



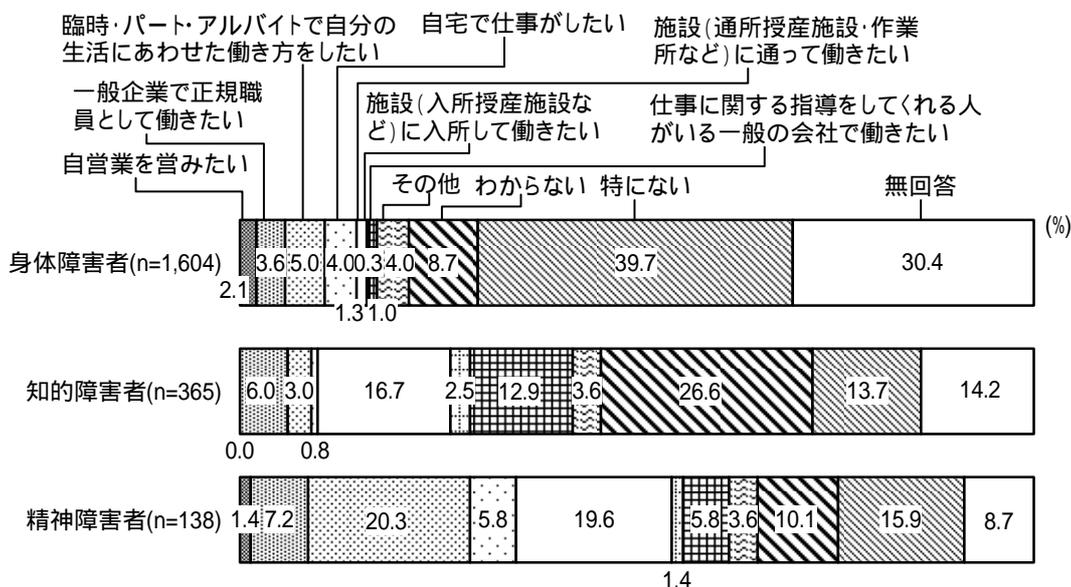
## 今後したい仕事

今後、どのような仕事をしたいかたずねました。

身体障害者は、「特にない」と「わからない」を合計すると5割弱になります。それ以外では、「臨時・パート・アルバイトなどで自分の生活にあわせた働き方をしたい」が5%となっています。

知的障害者は、「特にない」と「わからない」を合計すると約4割になります。それ以外では、「施設(通所授産施設・作業所など)に通って働きたい」が最も多く、「仕事の指導をしてくれる人がいる一般の会社で働きたい」が1割を超えています。

精神障害者は、「臨時・パート・アルバイトなどで自分の生活にあわせた働き方をしたい」が2割を超えて最も多く、「施設(通所授産施設・作業所など)に通って働きたい」が続いています。



### 自由回答では

「障害者自立支援法」の施行や「障害者の雇用の促進等に関する法律」の改正などを通じて障害者の就労に関する社会的な関心が高まっています。

今回の調査の自由意見でも、「障害のある人の働ける場所を増やしてほしい」、「社会の理解を充実させ、多様な働き方を個人個人の状態、能力にあわせてできるよう取り組んでほしい」、「工賃作業など、障害者ができるようなことがあれば、仕事をまわしてほしい」など、21件の記述がありました。

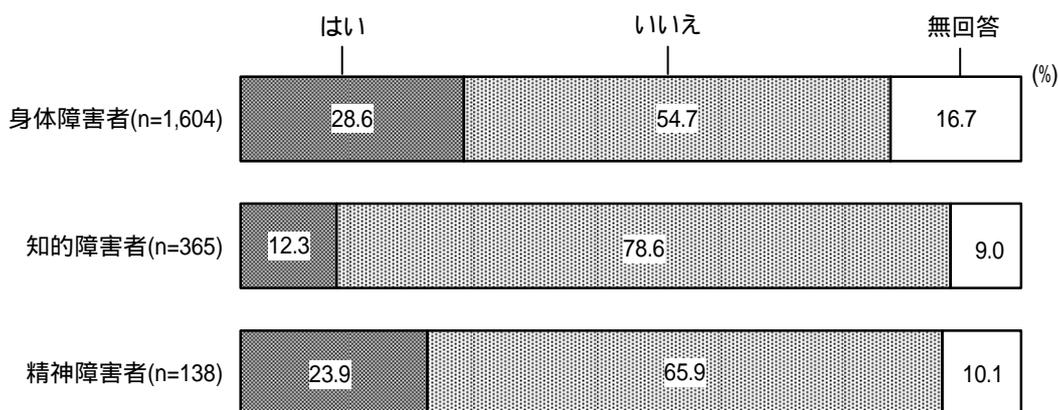
## 府中市民のノーマライゼーションの理解

ノーマライゼーションが府中市民に充分理解されているかたずねました。

身体障害者は、「はい」が28.6%となっています。

知的障害者は、「はい」が12.3%で1割台となっています。

精神障害者は、「はい」が23.9%となっています。



難病患者は、「はい」が36.1%となっています。



### 解説 (用語)

#### ノーマライゼーション

1950年代、デンマークの知的障害者の子を持つ親たちの会が、巨大な障害者施設の中で多くの人権侵害が行われていることを知り、その状況を改善しようと始めた運動から生み出された考え方で、提唱者のバンク・ミケルセンを「ノーマライゼーションの父」と呼んでいます。

わが国の障害者基本計画では「障害者を特別視するのではなく、一般社会の中で普通の生活が送れるような条件を整えるべきであり、共に生きる社会こそノーマルな社会であるとの考え方」と定義しています。

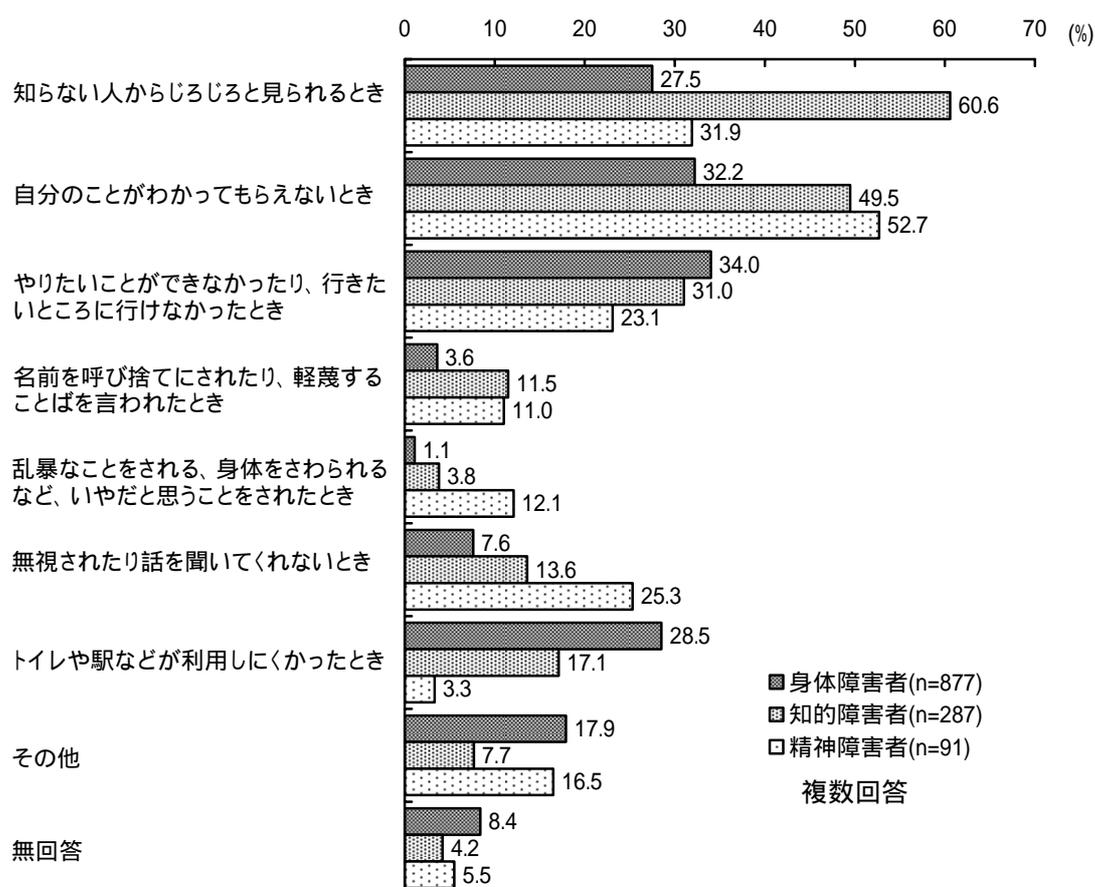
## ノーマライゼーションが理解されていないと感じるとき

ノーマライゼーションが十分理解されていないと思うと回答した人に、  
どのような時に感じるかたずねました。

身体障害者は、「やりたいことができなかつたり、行きたいところに行けなかつたとき」、「自分のことがわかってもらえないとき」が3割台であり、「トイレや駅などが利用しにくかつたとき」が続いています。

知的障害者は、「知らない人からじろじろと見られるとき」が6割を超えて最も多く、「自分のことがわかってもらえないとき」、「やりたいことができなかつたり、行きたいところに行けなかつたとき」が続いています。

精神障害者は、「自分のことがわかってもらえないとき」が5割を超えて最も多く、「知らない人からじろじろと見られるとき」、「無視されたり話を聞いてくれないとき」が続いています。



## 充実を望む施策

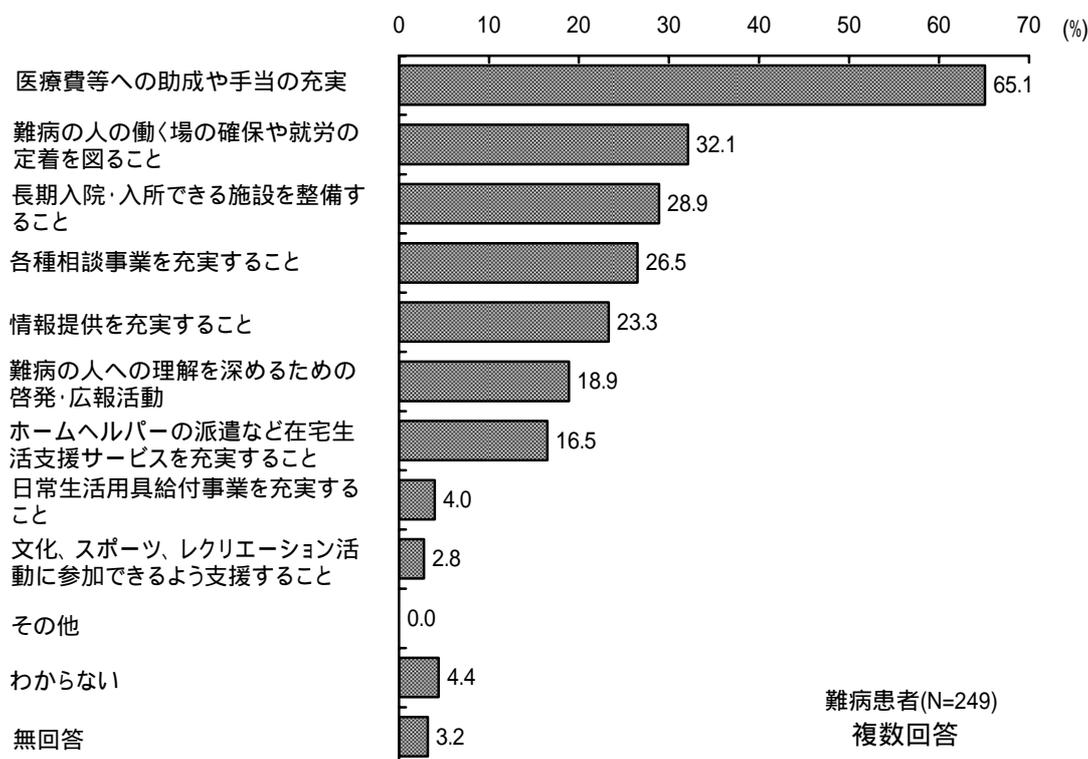
市に充実を望む施策をたずねました。

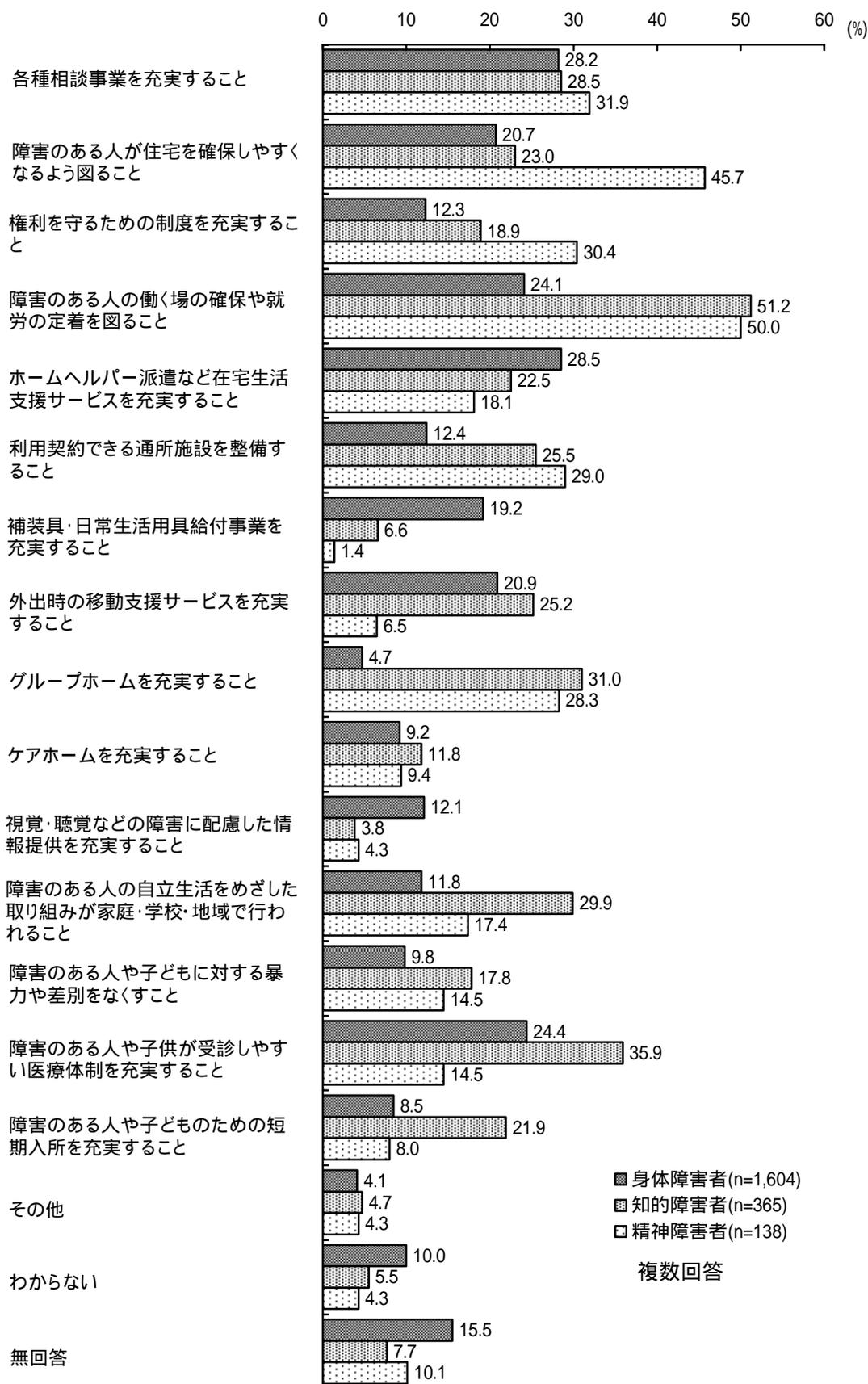
身体障害者は、「ホームヘルパーの派遣など在宅生活支援サービスを充実すること」、「各種相談事業を充実すること」が3割弱、「障害のある人や子どもが受診しやすい医療体制を充実すること」が続いています。

知的障害者は、「障害のある人の働く場の確保や就労の定着を図ること」が5割を超えて最も多く、「障害のある人や子どもが受診しやすい医療体制を充実すること」、「グループホームを充実すること」が3割台となっています。

精神障害者は、「障害のある人の働く場の確保や就労の定着を図ること」が5割で最も多く、「障害のある人が住宅を確保しやすくなるよう図ること」、「各種相談事業を充実すること」が続いています。

難病患者は、「医療費等への助成や手当の充実」が6割を超えて最も多く、「難病の人の働く場の確保や就労の定着を図ること」、「長期入院・入所できる施設を整備すること」が続いています。





## (2) 障害者福祉団体調査

### 活動する上で困っていること

障害者福祉団体が活動する上で困っていることをたずねました。

活動する上で困っていることは、「会員の意識(50.0%)」、「後継者問題(50.0%)」、「社会の認識(50.0%)」、「財政的支援(50.0%)」が8団体中4団体となっています。次いで「活動場所の確保(37.5%)」が8団体中3団体となっています。

(N=8)	団体数	割合(%)
事業の企画	0	0.0
運営方法	1	12.5
活動場所の確保	3	37.5
会員の意識	4	50.0
後継者問題	4	50.0
社会の認識	4	50.0
ネットワークづくり	0	0.0
行政支援	2	25.0
財政的支援	4	50.0
人的支援	1	12.5
その他	1	12.5
特にない	0	0.0
無回答	0	0.0

複数回答

#### 関連する自由回答の抜粋

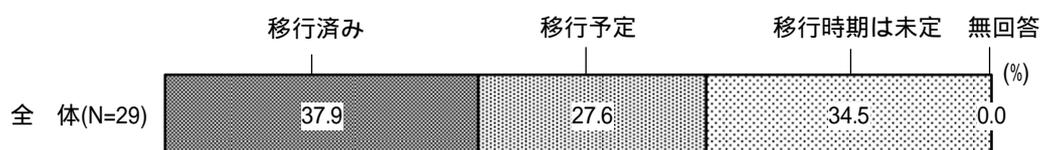
- ・ 各々の団体は、自分の活動だけで精一杯で、他団体との連携・協働関係を築く際には、事務局となる団体が大きな負担を強いられています。社会的な支援がほしいです。
- ・ 個人の自宅を事務所にせざるを得ない団体には、公共施設の一隅を区切って数団体の事務所スペースとして貸してほしいです。1団体にデスク1台とロッカー1個が置けるスペースがあれば結構です。各団体のデスクとデスクの間にはパーティションで間仕切りを設けます。他に共用の会議室、相談室があると嬉しいです。いくつかの団体が事務所を設けて活動できれば交流が深まり、連携・協働がしやすくなります。

### (3) 障害者福祉施設調査

#### 障害福祉サービス事業等への移行時期

障害者自立支援法に規定する障害福祉サービス事業等への移行時期についてたずねました。

障害者自立支援法に規定する障害福祉サービス事業等への移行時期は、「移行済み(37.9%)」、「移行時期は未定(34.5%)」が、いずれも3割台となっています。「移行予定(27.6%)」(移行時期が決まっている)は3割弱です。



#### 事業の採算

昨年度の事業の採算についてたずねました。

昨年度の事業の採算については、「損益はない(62.1%)」が6割台であり、「赤字(24.1%)」が2割台となっている。「黒字(10.3%)」は1割程度であり、29施設中3施設のみとなっている。



## 障害福祉サービスの充実に向けて必要なこと

市の障害福祉サービスの充実に向けて必要なことをたずねました。

市の障害福祉サービス充実に向けて必要なことは、「地域生活に移行するための住まいの整備(69.0%)」が最も多く、「障害者が安定的に就労するためのシステムづくり(65.5%)」、「緊急時・災害時に障害者を支援する体制の整備(62.1%)」が続いています。

